

モニタリングチェックシート（平成27年度）

< 評価 >

優：特記すべき実績・成果が認められるもの

良：管理運営が良好と認められるもの

要改善：一部において改善を要する点が見受けられるもの

施設名	障害者地域活動支援センター
指定管理者名	社会福祉法人 東京都知的障害者育成会
評価者	障害者施策推進課長

評価項目および評価の視点	評価	評価理由・改善すべき点等
1 効率的運営・効率化への取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業計画書で提案されたとおり事業が実施されているか ・ 計画的な予算執行であるか ・ 管理業務費の経理、収納した金銭の取扱いおよび実費負担金等については、適正な処理および管理を行っているか ・ 帳簿等を整備して、管理業務費の執行状況等を記録しているか ・ 利用者の利用状況は安定しているか 	良	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本協定や事業計画に基づく事業運営がなされている。 ・ 計画的な予算執行、会計処理の帳簿整理等が行われている。 ・ 利用者の利用状況は安定している。
2 施設管理運営体制 <ul style="list-style-type: none"> ・ 業務の再委託における範囲は適正か ・ 物品購入および再委託の際に区内業者の活用に努めているか ・ 職員配置は協定を遵守しているか ・ 職員について区内雇用の促進を図っているか ・ 設備の保守点検、備品の等管理は適切に行われているか ・ 緊急時のマニュアルを区と協議して整備し、緊急時には適切な措置を講じているか ・ 練馬区環境マネジメントシステムの趣旨を踏まえた業務を行っているか 	良	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務の再委託における範囲は適正である。 ・ 物品購入等における区内業者の活用に努めている。 ・ 職員配置は協定を遵守し、適正な運営体制を整えている。 ・ 設備の保守点検、備品の管理は適正に行われている。 ・ 緊急時のマニュアルを整備し、必要な訓練等を実施している。 ・ 節電に努める等、練馬区環境マネジメントシステムの趣旨を踏まえた業務を行っている。
3 サービスの維持・向上に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在のサービス水準を維持し、向上に向けた取り組みを進めているか ・ 地域や関係機関との連携を図って事業を実施しているか ・ 障害者と児童の交流を図って事業を実施しているか ・ 苦情処理の規定と体制を整備し、苦情があった際に適切かつ迅速に対応しているか ・ 計画的に職員研修を行うなど、職員の育成につとめているか 	良	<ul style="list-style-type: none"> ・ 細やかなアセスメントのもと、利用者や家族の生活状況に合わせて、関係機関の情報を提供するなど、適切な支援が行われている。 ・ 多彩なプログラムを通じ、地域や併設の学童クラブとの交流を図り、地域に開かれた施設運営に取り組んでいる。 ・ 学童クラブの児童とその保護者に、職員が障害に関する講座を毎月行い、障害に対する理解を進めている。
4 法令遵守等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 労働基準法、労働安全衛生法、育児・介護休業法、労働環境に関する法令等を遵守しているか ・ 練馬区情報セキュリティポリシーおよび個人情報保護条例に準拠した規程を設け、必要な措置を講じているか ・ 情報公開条例等に準拠した規程を設け、必要な措置を講じているか 	良	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雇用に関する関係法令等の遵守について適切に対応している。 ・ 情報セキュリティポリシーおよび個人情報保護に関する規程を整備し、研修や職員会議等を通じて周知徹底に努めている。 ・ 情報公開規程を整備し、必要な措置を講じている。
5 利用者評価等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者アンケートや第三者評価の結果は良好か ・ 運営協議会からの評価は良好か 	良	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者アンケートの結果は良好である（77%が満足）。運営協議会からの評価も良好である。
総合評価	良	<ul style="list-style-type: none"> ・ 項目全般について区が求める水準を満たしている。 ・ 細やかなアセスメントを行い、適切な支援を実施するとともに、関係機関への相談を勧める等必要なサービスに繋がるようサポートしている点が評価できる。 ・ 学童クラブ児童の障害に対する疑問をきっかけに開始した職員講座を、年15回程度実施し、継続的な取組が障害に対する理解を進めている。